

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3170100410
法人名	社会福祉法人こうほうえん
事業所名	グループホームはまさか
訪問調査日	平成 20年 3月 16日
評価確定日	平成 20年 3月 26日
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通じて確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チ ム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日 平成20年3月18日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170100410		
法人名	社会福祉法人 こうほうえん		
事業所名	グループホームはまさか		
所在地	鳥取県鳥取市浜坂字ツナシ253-1 (電話) 0857-23-6662		

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク		
所在地	東京都千代田区九段北4-1-9市ヶ谷MSビル4F		
訪問調査日	20. 3. 16	評価確定日	20. 3.

【情報提供票より】(20年 3月 6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人、非常勤 人、常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分		
------	-------------------------	--	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	19,500+電気代 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	夕食 円
	または1日当たり	1,100 円	おやつ 円

(4)利用者の概要(3月 6日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横浜病院、栄町クリニック、田中病院		
---------	-------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

来訪者に対して、利用者・職員が積極的に出迎え歓迎している。声かけ、もてなしなども印象的であり、明るく笑顔の絶えないグループホームである。また、地域との連携を目指す運営推進会議は2ヶ月に一回開催され、利用者家族代表をはじめ、市職員・地域包括センター・民生委員・地域代表などが参加しホームの状況を知ると共に地域の情報がもたらされ、事業所がより外部に開かれたものになっている。利用者・家族の希望する看取りケアも進められているが、今後の方向として、制度が滑らかに進むよう詳細な検討に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護職員の業務記録作業が多く、効率化が課題であったが、文書様式の変更や記入方法の工夫により、改善されたとの職員の声があった。今後の効率化に期待したい。 また、家族会の設立などで家族の協力を言う課題に対しては、今年度家族会が結成され、草むしりの催しを計画したり、ホームの行事に協力するなどの成果が現れている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 入職3ヶ月の職員から8年余の勤続の職員まで全職員で話し合って、自己評価に取り組んだ。自分たちの業務の見直しを含め多くの気づきがあったことである。定期的(年2回)な、個人業務目標管理の自己評価とあいまって、職員の業務の振り返りの機会となっている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホーム側からの説明は、利用者の状況・行事報告・予防接種などをはじめ、ボランティアや家族会についての報告も行われている。地域包括からは有用な情報などがもたらされている。また、年1回の利用者アンケートの集約を報告し参加者からの意見を得ている。これから会議は、状況報告の部分と、地域の高齢者の健康保持や認知症の予防など焦点を絞ったテーマも必要と思われる。
	重点項目 ③
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 昨年参加した地域の自治会からは、回覧板のやりとりや一齊清掃の活動など活発になつてゐる。また、近隣の教会や、コーラスグループなどの慰問がある、一方、公民館行事(敬老会、文化祭)や保育園の発表会などには、利用者が出かけている。地域との連携・交流は順調に進みつつある。

2. 評価結果(詳細)

(■ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念が玄関に掲示されている。当ホーム独自の理念とグループホーム独自の介護10原則を、共用場所に掲示して、毎日職員と利用者も一緒に唱和している。福祉職場における守るべきことが周知徹底が図られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記のように、毎朝の唱和によって、運営理念を述べられるようになっている。重要事項説明書の扉にも理念を示してあり、利用者や家族にも、法人やホームの目指していることを示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事、公民館行事などに参加し、地元の住民との交流がはかられている。近くの幼稚園・保育園の発表会に往くなど、世代間交流がはかられている。(1対1の交流もおこなわれている)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義と狙いなどについて、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。業務の進め方や考え方の振り返りの機会として役立っていると共に、協働の進め方などの意識も得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議が開催されている。事業所から利用者の生活状況や、体調の変化の概要も説明している。事業所の行事や予防接種、ボランティアや家族会の状況も報告がされている。地域包括センターからは地域の高齢者の動向などの情報がもたらされる。	○	今後の運営推進会議では、報告部分とは別に一つのテーマを絞って、法制度の方向・地域の高齢者介助の方針、認知症の症状と対応などを検討する機会を持つことも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは随時電話連絡やメールによる通信などで情報交換が行われている。制度上の疑問点なども問い合わせてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづらりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対しては月1回の便りを送っている。内容は、利用者個人ごとの生活状況や職員の異動などの説明文書と広報誌・季刊誌・金銭出納帳を送っている。家族の来訪時には、職員が心身の状況を説明すると共に金銭出納帳の確認ももらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームページ上に公表したり、苦情専用ダイアルを掲示したり、苦情受付ボックスの設置など、家族から苦情・相談を受けられるように配慮している。実際の受付件数は少ないが、家族アンケートなども年一回行って要望を聞き取るようにしている。	○	家族などからのサンクスレター・手紙などをファイルし、職員間で回覧をしている。どんなことが喜んでもらえるか、気に入らないかなどが把握できる。日常の利用者の言葉(つぶやき)を職員が記録して利用者を理解する手段としているが、それと共に、要望点の代筆なども可能であろう。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員の異動の無いように努めているが、今年度は退職が発生した。利用者・家族に報せると共に、新しい担当者の紹介している。新担当者と退職者を並行して勤務することにより利用者への影響が少ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画と当ホームの計画に従って研修に参加している。本人の能力育成希望も聞き取り実施している。法人のテレビ会議(月例)にも必ず一名が参加している。職員会議において資料配布・研修報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に入会している。法人外の同業者との情報交換をはじめ、年一回の相互研修(職員が3日間他のグループホームに入れ替わって勤務する)に参加して情報を得ている。	○	法人内部の6つのグループホームだけの研修会を2ヶ月ごとに開催している。テレビ会議で問題点や利用者サービスについての質疑などが行われている。今後の成果に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するするために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に合わせて、入所前にできるだけ回数多くホームに来訪するようにし、雰囲気に慣れるようにしている。ホーム内の共用スペースを利用して、デイサービスをすることも実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として尊敬し、一緒に食事や家事、掃除などを協働して生活を楽しむようにしている。花壇の手入れや草むしり、あるいは外の回転寿司などに職員と家族会、ボランティアと協力して行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に個々の意向を確認しているが、それのみにとらわれることなく、持っている能力や可能性を引き出すことに重点をおき、日常の関わりにおいても、思いや希望の把握に努めている。職員と一緒に字や絵を描いたり、家族の協力を得て墓参りを行うなど、把握した希望に対しての実践に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するときには、必ず本人や家族が参加し、担当職員、計画作成担当者と一緒にカンファレンスを開催している。本人や家族の意向を聞き、モニタリングや日々の関わりの中で把握した意向も反映して介護計画を作成している。作成した介護計画は、必ず同意を得たうえで署名捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回を基本に、変化があったときにはその都度見直しを行っているが、このときも、必ず本人や家族が参加している。本人や家族の変化した意向も取り入れ、新たな介護計画を作成している。見直した介護計画は、職員に周知徹底し、日常のケアにも活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスやショートステイ、訪問看護等の医療との連携がとり易い体制が整えられている。また、同じ敷地内にある同法人介護施設の物理療法士や言語聴覚士との連携体制も整えてあり、必要なアドバイスを受け、日々の支援に活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の協力医が2週間に1回往診に来ている。かかりつけ医とはファックス等を使用して連携をとり、希望によっては、総合病院への通院介助を行っている。受診結果は、申し送りや連絡ノートで全職員が把握できるようしている。また、全ての医師の携帯電話番号を控えており、緊急時に連絡が取れる体制も整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方にについて、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りマニュアルが作成してある。重度化した場合は、本人や家族の意向を聞いて、かかりつけ医や訪問看護師等の専門家の指導を受けている。専門家の意見をふまえて、全職員がケアの対応方法を検討して本人や家族の意向に沿うように努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の個人的な話は、共用の場ではなく自室で行い、個人ファイルは名前ではなく番号を貼る。また、申し送りも、名前でなく、イニシャルで呼ぶなどプライバシー保護の工夫をしている。個人情報保護規定が定めてあり、職員に研修し徹底している。家族に対しては、個人情報の利用目的も同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	一人一人の体調や精神状態をみながら、個々のペースに合わせた対応を行っている。個別ケアに重点を置き、よく不穏状態になる入居者に対しても、先入観を持たず、言動から意味をとらえて対応している。そして、ミーティングにて、職員が話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に、週3回は一緒に出かけている。また、調理の下ごしらえや片付けと一緒にし、味付けをみてもらうなど食事つくりが楽しくなる働きかけをしている。食器等も自宅で使用したものを持参している。また、必要な入居者に対しては、見守りや必要な食事介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は毎日、冬は隔日を基本に、16時以降に希望に応じて入浴できる体制をとっている。希望により入浴剤を使用したりする。また、拒否をする入居者がいるときには、時間において声かけをしたり、違う職員が誘ったり、時には、仲のよい他の入居者に誘ってもらうなど、スムーズに入浴できるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦を把握し、また日々の関わりの中で本人の趣味や得意な事、関心のあることを聞き逃さないよう接している。畠仕事や歌など特技のある入居者には、同敷地内の他施設を訪問したり、慰問の演奏会に行くなど行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩なども自由に行えるように支援をしている。また、ドライブ、外食、地域行事への参加などを企画して積極的に外出支援を行っている。他の入居者と一緒に外出したがらない入居者に対しては、個別に外出できるように働きかけるなど、個々に合わせた支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は開錠してあり、自由に出かけられる体制をとっている。また、行動を抑制するような声かけも行わないように配慮しており、安全を確保しながらも自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しており、年2回の避難訓練を行っているが、消防署の協力を得て、同敷地内の施設入所者と一緒に行っている。備蓄品については、グループホーム内には水が1日分のみであるが、同敷地内の施設に3日分の備蓄が準備しており、定期的に点検も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに、食事摂取量や水分摂取量をチェック表に記録し、職員は情報を共有している。水分は、お茶、ジュース、ミルクなど、個々の好みに合わせている。食事摂取量の少ない入居者に対しては、さりげなく声かけや介助を行い、必要量を摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、写真や絵画を飾ったり、職員と一緒に作った作品を置き、カレンダーや時計も入居者の目線に合わせた高さに掛けるなどの配慮が行なわれている。また、ソファーやイスを置き、入居者同志がくつろいで会話ができるようにしてある。さらに、室内温度設定や空気の入れ替えに気を配るとともに、光に対しても、遮光カーテンを使用する工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやコタツ・カーテンなど、自分の物が持ち込まれている。好みに応じて畳みを敷いている入居者もいる。また、職員と入居者とが一緒につくった作品を置くなどして、自分の居室でくつろげるような居室づくりが行われている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>22</u>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>10</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>17</u>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>38</u>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<u>13</u>
	合計 100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに問わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームはまさか
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市253-1
記入者名 (管理者)	小谷 佐奈恵
記入日	平成 20 年 3 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念・グループホーム独自の介護10原則を掲示し唱和、職員へ周知徹底を図り実現に取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員が、運営理念を述べることができる。介護10原則に基づいた介護を実践している。毎朝朝礼で理念を復唱し1日の始まりとしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営理念・方針を玄関に掲示している。また、入居時には、入居者、家族に説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	自治会に参加し回覧板などを隣近所に回すなど交流を深めている。近隣の人たちが慰問に来てくれている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事、公民館行事などに参加(敬老会・文化祭)し地元の方との交流を図っている。また、近くの幼稚園、保育園との交流もしている。	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会活動(一斉清掃など)に参加している。運営推進会議の中で認知症高齢者の情報共有を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。定期的な見直しの場としている。また、職員間にの意識統一の機会としても役立てている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヵ月に1回運営推進会議を開催し事業所からの報告と共に質問、意見、要望を受け、サービスの向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長村担当者と随時連絡を取り情報交換を行っている。疑問点なども担当者に聞きサービスの質の向上に努めている。	○	市町村担当者を中心に他グループホームとの意見交換会等を実施できればと思っている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は人権について研修を受けている。現在入居者の中に成年後見制度を利用している方が居り、必要時には家族、利用者に情報提供を行っている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加する機会を作り知識の共有に努めている。虐待が見過ごされる事のない様、職員間で注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を文書と口頭でわかり易く説明し納得して頂いている。不安、疑問が常に説明し納得、理解をしていただけるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	HPや苦情専用フリーダイヤルを掲示し連絡を入れ易くしている。利用者から苦情を言ってもらえるような関係作りに努めている。苦情について検討、対応、改善の結果や経過を伝えるプロセスがある(是正予防、広報誌)	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に状況を報告している。家族への月便りにも生活の様子、金銭管理、職員の異動などを報告している。また、随時電話でも報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	HPや苦情専用フリーダイヤルを掲示し連絡を入れ易くしている。アンケートなども実施し、家族から苦情を言ってもらえるような関係作りに努めている。苦情について検討、対応、改善の結果や経過を伝えるプロセスがある(是正予防、広報誌)、また訪問時にも不満、苦情などがないか伺っている。	○ 苦情、「提案など家族から、運営に対してのご意見が言って頂ける関係作りを継続していきたいと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者(理事長)が月1回程度訪問し職員との交流に努めている。また、管理者は職員が意見を言えるような関係つくりに努め、職員会議などで提案、意見などがあれば、検討し反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に必要な職員数を確保できるように努めている。柔軟な対応が出来る勤務体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年間に頻繁な異動がない様、最小限に努めている。異動の際は利用者、家族にお知らせし、新しい担当者の紹介を行い、担当がスムーズに新しい職員と引継ぎ、ダメージを防ぐ努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画や、研修会に参加できるように研修の知らせなどを供覧している。苑内研修に職員が必ず1名参加し受講できない職員に資料配布、研修報告をしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、法人外の同業者と情報交換、年1回の相互研修などで交流を行いサービスの質の向上に努めている。近くのGHとの交流も行っている。	○ 他グループホームとの交流を継続していけるよう努めて生きたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員の表情や態度を気に掛け、変化が見られたら、話を聞くように努め、ストレスの軽減に配慮している。1時間の休憩時間の確保、広げる空間づくりに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	職員が向上心を持って働くように職能評価を年2回行っている。資格取得に向けた支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談、入所後などに生活状況の把握や本人の思いに向き合い、受け止め信頼関係が早く築けるように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、緊急性など把握し、当グループホームが満床の場合、地域包括支援センターなどに相談し対応に努めている。相談に来られた家族の話をゆっくり聞く時間を設け、思いを受け止めるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ます必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が求めているものを理解し、必要な支援を見強め他部署との連携にも努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に合せて、何度かグループホームに足を運んで頂き雰囲気になれていただける様に支援している。また、共用スペースを利用してのディサービスなどの利用も検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩と捉え尊敬し一緒に食事や家事、掃除などを協働し穏やかな生活を送れるよう共に支え合える関係作りを心がけている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えあうもの同士としての関係作りに努めている。行事参加、苑庭作業などにも一緒に参加していただくこともあります。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と利用者との外出が自由に出来るようにしている。開苑記念や誕生日会など行事参加できるように働きかけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに出かけたり、自宅への外泊外出の支援など馴染みの関係が継続できるよう支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がお互いに力を発揮できる場面を作る配慮をしている。利用者同士がお互いに部屋へ行き来して関係を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<input type="radio"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	<input type="radio"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや意向をケアプランに反映させていく。思いを表現しにくい方には、生活歴、日常の様子などを観察しながら本人の思いに近づける努力をしている。	<input type="radio"/>	利用者の思いを汲み取れるよう日頃から寄り添いコミュニケーションを図りながら信頼関係を作っていくたい。
34	<input type="radio"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ヒストリーシートや生活歴、エピソード、家族からの聞き取りなどで把握に努めている。		
35	<input type="radio"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護日誌や、個人記録に一人一人の1日の過ごし方、心身の状態などを観察記録し現状把握に努めている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<input type="radio"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	作成前に職員が本人、家族から意向を聞いたり、職員同士の情報交換などで本人に合った生活支援計画を作成している。		
37	<input type="radio"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に一回見直しを行っているが状態の変化などが生じた場合は、本人、家族などと話し合い、都度、現状に即した見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子、気づき、工夫を記録し、申し送り時などで情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状をみながら、本人や家族の状況によりショートステイ、ディサービスを利用していただける様支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて地域資源を活用し利用者が生活しやすい様に支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャー やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族に日常の生活情報を伝え必要に応じて他のサービスへ移行していく体制がある。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと相談し対応している。運営推進会議に参加して頂き、情報交換し共有を行っている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時からのかかりつけ医を利用して頂き、担当医との信頼関係を築きながら状態に応じて家族と協力し、受診支援を行っている。受診前後の情報交換も密に行い共有に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療、対処方法など利用者の日常生活を当して適切な指示や助言をしてくれる医師と連携を図っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同施設の訪問看護ステーションと契約し連携を図っている。2週間に1回の訪問や体調不良時の訪問などにより日常の健康管理に努めている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院受け入れ機関と主治医と連携を図り、退院に向けた話し合いを行っている。入院先に職員が足を運び、顔を見て安心して頂く様に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態により家族、担当医、職員と話し合いの場を持ち、本人、家族の思いに配慮したサービスを提供している。情報を職員間で共有しケアに活かせるよう努めている。	○	ターミナルに関して家族との事前指定を話し合っていく方向に進めていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所で「出来る事、出来ない事」を明確に本人、家族等に説明し納得をして頂ける様に努めている。本人、家族の思いに配慮し担当医と共に支援をしている。常に検討し思いにあったケアを提供できるよう努めている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	日常の生活状況などの情報交換を行い不安など、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。また、状況により移り住んだ先に職員が出向き利用者の混乱が避けられるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声のトーンや、話の内容を他者に配慮しながら、声かけをしている(排泄など)個人情報が漏れないように申し送り時などイニシャル、部屋番号で申し送りをしている。個人記録の取り扱いにも配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力に合せて理解をして頂けるような言葉かけや、声の大きさに配慮しながら行っている。自己決定が出来るよう支援や能力が発揮できるような軽作業の支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や精神状態を見ながら、一人一人のペースに合わせ本人の希望に配慮した支援が出来るように努めている。		一人一人のペース、その日の思いを把握し、気持に添える支援をしていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所以前からの馴染みの理美容院は、利用していないが福祉美容にきてもらい、好みの髪型にして頂いている。また、希望により移動理美容車が利用できる体制をとっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、盛り付け、味付け、茶碗拭きなど利用者の状態に合せて炊事に関わって頂いている。会話を楽しみながら、一緒に食事をし、後片付けもして頂いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	何種類がある中で好みの飲み物を選んで頂いている。年に1~2回程度お酒も提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握しながら支援している。失禁にならないように様子を観察して声掛けを行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴の希望が多く、入浴は午後からとしている。体調の把握や、本人の希望も聞きながら、入浴剤を使用し入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり寝れるよう支援している	個々の就寝時間を配慮し支援している。夜間安眠につながる様に日中の活動にも配慮している。寝付かれないと時は温かい飲み物などを提供し安眠を促すようにしている。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の趣味、役割、希望を把握し日々の生活の中で活かせるよう支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に衣服、おやつなどの買い物に行き、好みのものを購入していただき一緒に支払をする等の支援を行っている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物に行く時などは、希望を聞き一緒に出かけている。また苑庭を自由に散歩されたり、催し物、外食に出かけるなどの支援にも努めている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見、紅葉狩、ホタル観賞、外食などの機会を作り、家族にも声掛けをして参加を呼びかける支援をしている。	○ 今後も季節感を感じて頂けるように外出支援をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、状況(不穏時)に応じて家族に電話をかけ、会話をして頂いている。年賀状も個々に作成し家族などに送る支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人がいつでも来苑して頂けるよう声掛けをしている。来客があったときは、職員、利用者が笑顔で出迎え、お茶出しをして頂いている。家族、知人の来苑時には、各居室で、お茶を飲んでゆっくり過ごせる環境を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でネバモア宣言をし身体拘束の廃止を行っている。法人内の研修などを通して職員は身体拘束の意味を理解している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、窓などを開錠している。玄関から苑庭には自由に出て頂ける体制を取っている。所在確認を行いながら、時には一緒に散歩も楽しむよう努めている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず、定期的に所在確認を行い安全に配慮している。居室のドアを閉める、入室時には声掛けをするなどプライバシーに配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の物品管理を行い個々に応じた居室の環境を整えている。また必要に応じ施錠をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回を原則に避難訓練の実施や、個々のリスク対策、法人のマニュアルの周知、法人独自の事故報告書の作成など事故防止及び再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習会、研修に参加し知識の習得、応急手当、救急救命法の勉強を行っている。訪問看護との連携や、隨時指導も受けている。	○	救急救命に関する講習へ参加の継続をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回を原則に避難訓練を行っている。自治会に入会し、地域の人との関係作りに取り組んでいる。災害時に備えて、食料、飲料水の備蓄を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	小さな変化でも家族に知らせている。一人一人に起こりうるリスクも、職員間で検討し、カンファレンス時、来苑時などに知らせ話し合っている。リスクに配慮しながら、個々の能力が發揮できるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日頃の状態を把握し早期発見に努めている。経過観察の記録を残し、情報の共有を図っている。主治医、訪問看護に報告し指示を仰いでいる。家族にも報告し共通意識に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、目的、副作用、用法、用量を確認し医師の指示通りに服薬している。往診時に個々の状態報告を行い連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘薬ばかりに頼らないようにし、食事、水分、運動などに配慮しながら、個々の状態に合せた支援を行っている。	○	一人一人の体調を把握し、薬に頼らず、自然排便に努めていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に合せた支援を行い、毎食後、口腔ケアを行われたかの確認と法人内の歯科衛生士に口腔内チェックを随時して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し体調管理に努めている。個々に合せた食事形態、食事量の提供に努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人のマニュアルを参考に周知徹底している。うがい、手洗い、除菌の徹底、手袋を使用し予防に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	タオル、布巾、まな板などの消毒、新鮮な食材を使用、賞味期限を守り使用している。台所、冷蔵庫の清掃の徹底に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、手すり、スロープがあり、安心して出入りができる。苑庭にはベンチを置き寛げる空間、交流の場所がある。苑庭には、四季折々の草花が咲き、季節を感じられ、訪れやすい雰囲気つくりをしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、まぶしい日差しが入らない様にカーテンで、遮光するように工夫している。食事作りの音、匂い、季節の花を飾り、五感に働きかける工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にそふあー、椅子、テーブルを置き、利用者同士がいつでも寛げるよう居場所の工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や、居間に馴染みの深い調度品や、以前使用していた使いなれたものを家族と相談しながら置き、安心して暮らせる居心地の良い空間となるように配慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、居間、廊下、トイレなど随時換気に努めている。温度、湿度の調節は職員の感覚ではなく利用者の様子を見ながら調節をしている。外気との温度差を考慮している。	○	過剰な冷暖房の使用を避け利用者の体調に配慮する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	マットなどのすべり止め、廊下、トイレ、居室内の手すりなど要所に設置をし、安全にかつできるだけ自立した生活が送れる様工夫をしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の目線に合せて、トイレの表示、日付けカレンダー、時計の表示を行っている。場所の分からず利用者には、個々に合った目印などで対応している。必要がなくなった場合は除去するように対応している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに花壇、畑仕事が出来る場所がある。ベランダから裏庭でることが出来る。裏庭にベンチ、テーブルを置き、寛ぎの場所として活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	職員は、活き活きと働けている	<p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族、地域の方々、ボランティア等外部の人がいつでも訪問して頂けるように、挨拶、笑顔など常に心がけている。